

平成23年度 第1回八尾市産業振興会議 議事録

日 時	平成23年7月12日（火）午後2時00分～3時45分
場 所	八尾市文化会館（プリズムホール） 4階 会議室1
出席者	<委員> 鶴坂委員（座長）、文能委員（副座長）、石部委員、川江委員、周防委員、寺西委員、中浜委員、林委員、東口委員、藤下委員、藤原委員、山崎委員、横山委員 計13名 <事務局>角柿部長、松井理事、尾谷次長、築地参事、濱崎参事、岩井課長補佐、伊東室長、主井係長、古賀係長、堀江 計10名 <オブザーバー>八尾商工会議所・岩本所長 計1名 総計24名

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開会

2. 経済環境部長挨拶

3. 委員紹介及び事務局紹介

4. 議事

－座長による議事進行－

（1）産業振興会議の本年度の進め方について

事務局より、配布資料1、2に沿って、平成23年度以降の市の産業振興の進め方、及び平成23年度の産業振興会議の進め方について説明。

（2）情報発信部会について

- ・事務局より、配布資料3、4に沿って、平成23年度の情報発信部会の進め方、スケジュールについて説明。
- ・座長の鶴坂委員より文能委員を部会長に指名

【質疑応答・意見交換】

委 員： 部会で検討するにあたり、既存の施策についてまとめた資料等あれば検討を進めやすいが。

事務局： 部会の際におっしゃるような資料を作成・配布させていただき予定としている。

委 員： 市の産業についてPRするための施設などはあるのか。

事務局： 新たに設置した商工会議所会館内に、商工会議所の管理スペースだが、市内企業の製品の展示ケースがある。なお、部会での議論についてはハード整備ではなく、既存施策でいうところのものづくりネット、DESSE八尾やOn-Doネットのようなソフト施策についての検討をお願いしたい。

委 員： 先端的な技術など、発信についてはいろいろあるが、どういった切り口での検討を考えているのか。

事務局： 特に範囲を決めてというのではなく、自由に意見を出していただき、その中で結論を絞り込んでいく形としていただきたいと思います。

委員： 教育との連携について、7月26日にこども消費者教室を開催し、そこで昨年度に児童のアイデアを元に開発された留守番ロボット「ルロ」を活用する予定である。また教育とは様々な形の連携が考えられるが、産業サイドとしてはどのように連携したいのか。

事務局： ルロは産業と教育との連携成果の一つと考えている。連携についての大枠の構想は、今後検討を進める予定だが、直近の取組みでは、8月下旬に新任教師向けの研修の一環として、市内中小製造業の工場見学を行い、その魅力を学んでもらう機会を設けている。副教材としてのDVD作成についても、産業サイドだけで考えていいものを作るのは難しいため、現場の先生の意見を聞きながら作成を進める予定。

委員： 経営している市内の飲食店に新たなロボットを設置。合わせて子どもたちも遊べる小さなロボットも設置する予定。また、来年度の夏休みにロボット教室を開催したいと考えている。八尾のものづくりの企業が商業（飲食店）から発信するような形を考えている。なお、今回新たに設置するロボットは持ち運び可能であり、市内の商店街等でも活用して欲しい。子どもたちに八尾はロボットが作られているまちだと知ってもらい、大きくなったらロボットを作りたいと思ってもらいたいと考えている。また、条例を子どもたちにも親しんでもらうため、マンガ版冊子作成の議論があったが、これは大いにやるべきと感じる。マンガが描ける人を募集するなどもいい。

委員： 前回の本体会議で、平成23年度の新たな取組みとして、情報配信員の配置と魅力創造室の立ち上げを行うと聞いたが、魅力創造室では現状どういったことをされているのか、情報配信員はどういった活動をされているのか。また、これらの見える形の成果としてどういったものを考えておられるのか。

事務局： 現在、魅力創造室では、市内の地域資源についての全庁的な掘り起こし作業を行っている。また、先月から庁内関係各課を集めた会議を開催。会議を重ねる中で魅力発信行動方針（仮称）を策定し、本市の魅力発信の方向性について庁内的なコンセンサスを得、その上で学識経験者、広告代理店、市民、市民活動団体等で構成される会議体を立ち上げたいと考えている。また、観光WEBサイトを商工会議所と合同で立ち上げ、産業に関わらず、文化、歴史、人物等、市内のあらゆる地域資源を網羅した情報をそこから発信する予定としている。なお、サイト立ち上げにあたっては、On-Do ネット、ものづくりネットをどういう風にかからめるかの検討も進めたいと考えている。また、構想段階ではあるが、次年度には八尾の魅力発信ブックなど作ることができればと考えている。

事務局： 情報配信員については、委託先の商工会議所で2名を新規雇用し、市と商工会議所の施策の市内企業へのPR活動を行っている。また、市内企業が求めている情報の内容や情報媒体等についてのニーズ調査を実施する予定であり、その調査結果については産業振興会議へも報告させていただく予定としている。また、本事業の中で産業情報についての冊子の作成とWEBサイトの立ち上げを予定。市、会議所に限定せず様々な支援施策情報等の発信を検討している。

委員： アナログ、デジタルに関わらず、情報はシェアすることが重要。マーケティング理論では、消費者行動の法則として、情報のシェアの概念をいれたA I S A Sの法則（アイサスの法則）が注目されており、誰かと情報を共有することの重要性が高まっている。例えば融資制度について、ただそういう制度があるというだけではなく、「融資制度を使ってよかった」ということについて共感が得られてはじめて情報が意味をなす。

商店でも「生地がよかった」などの口コミを有用な情報として広がりを持たせることができる。企業は戦略的にそれを行っており、いかに情報をシェアするかは仕掛けづくりが重要。その中でポイントは人。委員も10人いれば10とおりの仕掛けを考えることができる。双方向の情報の発信、情報を

シェアする仕組みを検討できればと個人的には考えている。

委員： 素晴らしい企業、ものづくりの技術力等について発信していきたい。仕掛けが大事という話があったが、加えて参加が大事だと感じている。マンガ版条例についても、そういった趣味や能力を持っている人を巻き込んでいくことが大事。

(3) その他報告事項について

資料5、6、7、8に沿って事務局より説明。

【質疑応答・意見交換】

委員： 資料8にある英語版の企業情報データベースについて、活用・利用度はどの程度か。

事務局： 今年の4月1日から配信を開始しているが、海外からの引合いメール等はまだ届いていない状況である。今後こういった形で進めれば、効果があがるか検討を進めたいと考えている。

委員： 情報発信部会について、教育、個店以外にもいろいろな切り口の情報発信が考えられ、あらゆる分野が関わってくるため、検討をすればするほど範囲が広がり内容がぼやけてしまう可能性がある。第一回部会では現状把握を行うとあるが、可能であれば、現状として発信しているものについて事前に資料を提供してもらいたい。また、内容については産業に関わらず、様々な種類をピックアップしてもらえれば、その中からいろいろな角度からが検討できる

事務局： 資料は事前配布に努めさせていただく。

事務局： 情報発信部会について、魅力創造室では、産業分野に限らず、歴史、文化、自然などいろいろな八尾の資源の発信を行っていくが、部会についてはあくまで産業分野の発信について検討いただきたい。

委員： 柏原市のサンヒル柏原で大阪品（もん）を用いた料理が提供されている。帰りのバスも無料で運行されており、地域の産業と消費者とのつながりを感じることができる。

委員： 全国的に中小企業振興条例を策定するための取組みが進んでいる。地域産業を守り、活性化を図ることを重要視する機運が各地で高まっている表れでは。八尾市の条例は非常にいいものになった。これを市内だけでなく、市外へも発信していく必要がある。部会でも理念をどう広めるかについての検討を提案されているが、この点は重要である。昨年11月に開催したシンポジウムでは様々な立場の皆さんで意見を出し合ってもらったがマテック八尾の10周年イベントと合わせる形で、今年度も開催する予定。市も我々の活動を是非利用していただきたい。また、条例の第5条に市の財政上の措置について新たに明記されたが、この意味とは。

事務局： 市が施策を実現するには予算上の措置を必要とするものがある。従前でも当然生じていたことだが、条例上明記することでその実現性の担保を図ったものである。

委員： 産業の情報発信は成果が見えにくく、何をもって成功とするかが難しい。経済産業省のマッチング事業でもマッチングした件数を実績としても、それが真の事業効果とどう繋がるか分かりづらい。成功事例を発信して魅力のある施策だと感じてもらうことの多さが一つの成果となるのかも知れない。部会で検討された結果を報告書にまとめるとのことだが、検討した施策の成功目標（アウトカム）を記載して欲しい。またそういったアウトカムを達成するためのアクションプランを示していただきたい。そうすることが八尾市の施策展開にもつながるのではないか。

委員： 条例は制定して終わりではないという点は重要。また、次代を担う子どもたちへの情報発信について、新任教員の研修のお話があったが、実際に子どもたちを教える立場にある教員に見てもらいたい

うことは非常にいい取組みだと思う。教育委員会との連携について、是非力を入れて進めて頂きたい。

委員： 部会に参加させていただき、情報発信の検討について頑張りたい。

委員： 各地のゆるキャラを紹介するテレビ番組があるが、八尾のものはまだ出ておらず残念。また、ルロを是非見てみたい。子どもたちへの発信について、子どもだけでなく保護者も一緒に見ることができる参観のような形もいいと思う。お母さん方にはブログなどを行っている方も多く、そのロコミ的な情報発信力は非常に大きい。

委員： 自らHPを立ち上げたことがあるが、多くに見に来てもらうことは難しい。発信のためのツールは簡単に手にすることができるが、その成果をあげることの難しさを感じた。

委員： 少しの情報で瞬く間に大きな影響が出ることが多い。情報は上手に使うことで有用なものとして伝わっていくが、一方で間違った情報が伝わらないようにする必要がある。中途半端な情報は出さない方がいいことが多いと感じる。部会では、自分として出せる情報を積極的に出し、また検討された内容について周辺に伝えていきたい。また、ゆるキャラについて、売り出しの際に活用するキャラクターをつくり、今度名前募集を行う予定である。こういった取組みを少しずつ進めていくことができると考えている。

委員： 消費者の声、ロコミは重要。報告書にある地域の商店街のイベントについても、ロコミでいろいろな情報を聞く。ペントモールの「ギュギュッと詰め放題」やファミリーロードの「わんぱくちびっこカーニバル」など評判がよく、親子で商店街に行くきっかけとなる。高齢者等の買物弱者の問題に関して、宅配サービスの取組みは力強いサービスである。そういった人たちにも焦点をあて、情報発信を図っていく必要がある。

5. 産業政策課長挨拶

6. 閉会

以上